

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2070500539		
法人名	医療法人 栗山会		
事業所名	グループホーム わたぼうし		
所在地	飯田市羽場権現1618 (電話) 0265-24-2315		
評価機関名	特定非営利活動法人 長野県高齢者福祉協会		
所在地	長野県長野市南長野南県町1001-3 陽光丸ビル4階		
訪問調査日	平成21年2月18日	評価確定日	平成21年4月22日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

G・H「わたぼうし」は、介護保険のスタートした年（平成12年10月18日）に医療法人栗山会が開設。飯田市郊外の丘陵地帯に施設があり、系列の老人保健施設と隣接している。市内には、他に病院を経営しているので、医療面で利用者の健康管理が行き届いている。ホーム内では、中央の大きなテーブルを囲んで、利用者と職員が和気藹々と団欒している光景に、家庭的な温かさを感じた。一方、建物の構造上、野外への「非難経路」が少ないので、有事に備え、様々な状況を想定したさらなる「訓練」を期待したい。また、火災や地震から利用者を守るには、地域住民の応援が重要なポイントになるので、地域住民との交流をさらに深め、いざという時の為の「協力体制」強化を期待したい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）                  これまでは、全職員で自己評価に取り組んでいたが、今回は、職員の交替等で、正規職員が中心になって自己評価を行い、あとで全職員に対し説明をおこなった。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）                  現在のグループホームの運営形態からみても、職員全員が一度に会って自己評価等に協議するのは極めて困難のようだ。そんな中でも、個々の職員が評価の意義や改善事項に理解し関わりをもっている様子が伺えた。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）                  定期的開催される運営推進会議において、行政代表や地域代表の委員からグループホームの運営について、様々な意見や要望を受け、これをサービス向上につなげている。一方、隣接の老人保健施設も市当局との連携が濃いので、そこから得られる情報を検討しサービスの質の改善を図っている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）                  定期的に発行する広報誌「わたぼうし」に、本人の写真と家族宛の手紙を添え、利用者の近況を知らせている。面会のつど家族と懇談し、家族の意見や要望を聴取している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）                  ホーム周辺に民家が少なくことから、地域との交流は極めて困難な状況。時折り近隣農家の人達が野菜を持参する程度の交流はあるが、それだけに、有事に備え、今後は地域交流をさらに深め、いざという時の協力体制を整えておくことを望む。</p>
重点項目④	

## 【情報提供票より】（平成21年1月10日事業所記入）

### （1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年 10月 18日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.5人

### （2）建物概要

建物構造	木造平屋建て
	1階建ての ~ 1階部分 296.63㎡

### （3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	月額 60,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 75,000 円	
敷金	有 ( 円 )	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ( 円 )	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,400 円			

### （4）利用者の概要（1月10日現在）

利用者人数	7名	男性	0名	女性	7名
要介護1	2	要介護2	4		
要介護3	1	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 83.57歳	最低	76歳	最高	97歳

### （5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 栗山会 飯田病院
---------	---------------

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と家族の関わりを重要視する施設の理念が、地域密着型体制のもとで、わかり言葉で表現されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	外来者や職員が目につき易いように、施設の理念がホーム内の要所に掲げてあり、これを日常業務の中で実践しているとの説明あり。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺に民家が少ないなどの特性から、地域との活発な交流は困難だが、近隣農家の人が、時折り野菜や果物を持参して、ホームを行き来することがあると説明を受ける。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームの運営形態から言って、全職員が一度に会して自己評価等について協議するのは困難だが、個々の職員が評価の意義や改善事項について理解し、関わりをもっている様子が伺えた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の会議で、グループホームの運営経過を報告し、そこから得た様々な意見を職員間で検討してサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	隣接の老人保健施設（同一経営）が、積極的に行政担当者らと交流を図っているため、そこから得られる情報や意見を検討し、グループホームのサービスの質の向上につなげている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、施設担当者から家族宛に金銭出納状況や写真を綴った手紙を添え、利用者の現況報告を行っている。 ホームの広報誌「わたぼうし」を定期的に家族宛に郵送し、グループホームの運営状況を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会で訪れる家族と懇談するつど、家族の意見や要望等を聴いている。併せて「苦情窓口」がホーム内に設置してある旨を掲示し、いつでも家族の意見が受けられる環境にある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特別な事情がない限り、担当職員の異動は抑えている。仮に異動があっても、適任者を配置し、家族への連絡も速やかに行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務シフトの関係上、職員に研修を受けさせる機会は限定されるが、隣接の老人保健施設（同一法人経営）との合同研修会に積極的に参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣同業者との相互理解を深めるため、地域のグループホーム会議に積極的に参加している。併せて、他施設を訪問して良いところを参考にするなど「サービスの質」の向上に役立てている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面接訪問では、利用者が生活する家庭環境を十分に理解し、利用者が施設に訪れた際は、利用者や家族らに、グループホームの運営内容や雰囲気を理解、納得してもらえるよう、詳細に説明。入居後も、ゆっくと環境慣れできるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に対し、日ごろから敬意を持って接している。さらに、利用者が自由に発言しやすい環境に整え、利用者の喜怒哀楽にも共感できる対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や意向に合わせ、利用者が日々、生活に潤いが持てるように対応している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するにあたり、利用者本人や家族らと話し合いをする中で、利用者、家族の希望をとりまとめ、日常生活からのモニタリング等をケア会議で協議しながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は3ヶ月毎に見直しをしている。その他には状態の変化等が生じた場合には利用者にあった期間で実施している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設している老人保健施設と、各種行事を通し、交流を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの掛かり付けだった医療機関への受診支援や定期的に行われる健康診断への適切な支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで重度者や終末期利用者はいなかったが、今後は終末ケアについて家族の意向も含め、重要な課題として会議等でも話が出始めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護についての研修も行われ、取扱いに関しては職員全員が理解している。プライバシーに関しては意識した対応に心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の暮らしを把握し、その人のペースに合った過ごし方に日々対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、準備、片付けと、その人にあった形で関わり食事を楽しんでいる。食事時間も大体同時間であるが、利用者の希望に応じ対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大体は午後の入浴であるが、利用者の希望で午前からでも入浴できる体制が整っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々に出来る事等を把握し、出来る範囲で役割、楽しみ方をしており、またそれに対して支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関からは坂になっていて利用者は出たがらないが、食事等の買い物または併設施設への訪問、回りは果樹園になっていて花の咲く頃には、なるべく外出できるように声かけをし支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜のみの施錠となっており、昼間の出入り時にはチャイムが鳴るようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設の老人保健施設との合同で防災訓練を行っている。地域の参加もあり、運営推進会議等でも議題として取り上げ防災意識に取り組んでいる。	○	避難経路が玄関の1箇所のため、グループホーム独自の防災訓練の実施をし、より一層の意識の向上を期待します。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立を立て、併設施設の栄養士に栄養管理を見てもらっている、食事量、水分量等食事の記録もし、利用者個々に支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールの天井が高く開放感がある。ホールにはテーブルその奥にはソファで入れるコタツが整備されており、それぞれがその時を楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた思い出のものの持込をし、それぞれが自分なりに思い出の使い方をしており、職員もそのことに対し支援している。		

※  は、重点項目。